

性の多様性が認められ安心して過ごせる学校・園づくり ～学校・園生活の中でできる支援～

☆日頃からいじめや差別を許さない学級づくりを心がけるとともに、違いを受け入れ、「多様性が尊重される」集団づくりを行う。
からかいや差別的な発言を許さない。決めつけない。

☆研修等、教職員や保護者が多様な性について学ぶ機会をつくり、正しい認識のもと、子どもたちに肯定的なメッセージを伝えるようにする。

☆悩みや不安を抱える子どもが相談しやすいような信頼関係をつくる。
授業や日頃の言動でLGBTの子どもがいるかもしれないという視点を大切にす。

☆教室、図書室、保健室等にLGBTに関する本や資料を置いたり、ポスターを掲示したりする。

☆身体の性にとらわれない選択ができる配慮や支援をできることから始める。
(制服・体操服、トイレ・更衣室等)
不必要な男女分けがないか見直してみる。(各種様式にある性別欄、名簿、グループ分け等)



○児童生徒から相談されたら…

カミングアウトには、「自分のことを知ってほしい、理解してほしい」という思いが込められています。打ち明けてもらえたということは、あなたを信頼しているということです。

聴く

- ・安心して話せる環境をつくり、最後まで傾聴する。
- ・「話してくれてありがとう」と伝えるなど、今後も相談できるような関係をつくる。

一緒に考える

- ・困っていることやニーズを十分に聞き、対応を一緒に考える。
- ・これまで打ち明けた範囲を確かめるとともに、誰になら伝えていいのか、保護者に対するカミングアウトについても本人の意思を確認する。

つなぐ

- ・本人や保護者の意向を踏まえながら、必要に応じて、相談機関や外部機関との連携を図る。

カミングアウトは強要されるものではなく、カミングアウトをするかどうか、誰にするのかは本人が決めるものです。

文部科学省通知平成27年(2015年)年4月「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」

(別表) 学校生活の各場面での支援について

項目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の服装・衣服や、体操着の着用を認める
頭髪	標準より長い頭髪を一定の範囲で認める(戸籍上男性)
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む)を児童生徒が希望する呼称で記す 自認する性別として名簿上扱う
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性) 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める
修学旅行等	1人部屋の使用を認める 入浴時間をずらす

参考資料の紹介

平成26年度 法務省委託 人権啓発ビデオ
あなたがあなたらしく生きるために
【性的マイノリティと人権】

<企画>法務省人権擁護局 人権教育啓発推進センター
<http://y2u.be/G9DhghaAxlo>



滋賀県学習情報提供システム
「におねっと」から検索・貸出予約ができます。

におねっと 検索

<http://www.nionet.jp/>

性の多様性を考える

～性的マイノリティの子どもが安心して過ごせる学校・園づくり～

さまざまな「性のあり方」

生まれた時の性別である「身体の性」と、自認している「心の性」は、必ず一致するものではありません。さらに、「男性だから女性が好き」とは限らないし、「女性だから男性が好き」とは限りません。「性のあり方」は多様であり、他人が決めるものではありません。
社会的には少数派のそういった人たちのことを「性的マイノリティ」と呼ぶことがあります。

身体の性

＝生物学的な性

生まれながらの身体の性。

心の性

＝性自認

自分の性別をどのように認識するかということ。

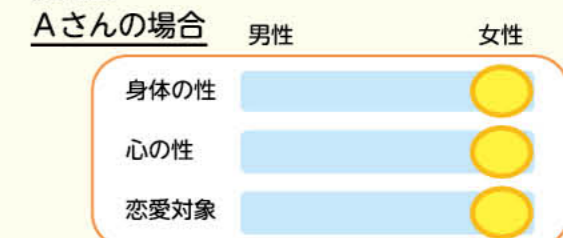
恋愛対象

＝性的指向

恋愛の対象がどのような人であるかということ。異性や同性、両性等の場合がある。

※その他にも、自分のセクシュアリティをどのように表現するか、「女らしさ」「男らしさ」や服装等の「性別表現」という要素があります。

例えば…



「身体の性」が女性、「心の性」も女性、「恋愛対象」は女性のレズビアン。



「身体の性」が男性、「心の性」が女性のトランスジェンダー。「恋愛対象」はバイセクシュアル。

※黄色丸の位置は一つの例であって人によって異なります。

心の性(性自認)や恋愛対象(性的指向)は人それぞれです

LGBTとは?

LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせたものです。

L (レズビアン)

女性の同性愛者

G (ゲイ)

男性の同性愛者

B (バイセクシュアル)

両性愛者(性別にかかわらず異性を好きになることも同性を好きになることもある)

T (トランスジェンダー)

生まれた時の法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人(性同一性障害者を含む)

※他にも、どの性別の人も恋愛の対象にならない「アセクシュアル=A」や、自分自身のセクシュアリティを決めない、決められない「クエスチョニング=Q」等、性は多様であり、LGBTに限られるわけではありません。

※Sexual Orientation(性的指向)とGender Identity(性自認)の頭文字をとった「SOGI」という表現もあります。

※統計によると、人口のおよそ5～8%がいずれかの性的マイノリティであると言われています。(40人クラスのおよそ2～3人)

届いていますか？ 子どもたちの声

気になる子ども
いませんか？

幼稚園の頃から、女の子の集団にいることに違和感を感じていた。「女らしくしなさい」とか、「女の子なんだから…」と言われるたびに苦痛だった。友だちと好きな男の子の話をするのがいやで、ずっとうそをついていた。

男同士で仲よく遊んでいたら、「そんなことしたらホモになるぞ」と笑いながら言われた。この先生には絶対相談できないと思った。保健の授業で、「みんな異性を意識する年頃だよね…」と言う先生の言葉で教室にいられなくなった。同性愛の生徒がいることは全く前提とされていなかったと思う。

同性の人が好きな自分っておかしいの？
将来幸せになれるの？
この先、
どうしたらいいの…。

小学校の時から自分ではよくわからない感情があったけど、知識も情報もあまりなかったので一人で悩んでいた。授業で多様な性について学ぶ機会があれば、自分の悩みに早く気づくことができたのに…。



イラスト協力：長浜北星高等学校美術部

制服のスカートをはくのが毎日いやだった。何でも男女で分けられるし、トイレやプールの授業、修学旅行もいやだった。学校に自分が安らげる場所なんてなかった。先生のおかげで最後の1年間だけは、ズボンで通うことができた。

まわりから「ホモ」「オカマ」だと噂されて、ずっといじめられていた。それがいやで学校に行けなくなったけど、いくら理由を聞かれても誰にも相談できなくて、苦しかった。異質な存在だと思って、自分のことが嫌いになって、自殺を考えた。

中学校の時の担任は、いつも話を最後まで聞いてくれる先生だった。おもいきって、「好きな同性がいる」と打ち明けたが、驚かずに話を聞いてくれた。「話してくれてありがとう。」その先生の一言で救われた。卒業した今でも相談にのってもらっている。

なぜ、学校・園で取り組む必要があるの？

岡山大学ジェンダークリニックを受診した1,167人の性同一性障害当事者のうち、小学校入学以前に約6割が、中学生までに約9割が性別違和感を自覚しています。また、約6割は自殺を考え、約3割が自傷・自殺未遂や不登校の経験があると回答しています。自殺念慮を持つ年齢のピークは、思春期である中学生の頃であると報告されています。

【性的違和感を自覚し始めた時期】

	全体 有効回答数1,167人	MTF 有効回答数431人	FTM 有効回答数736人
小学入学以前	660(56.6%)	145(33.6%)	515(70.0%)
小学低学年	158(13.5%)	67(15.5%)	91(12.4%)
小学高学年	115(9.9%)	56(13.0%)	59(8.0%)
中学生	113(9.7%)	74(17.2%)	39(5.3%)
高校生以降	92(7.9%)	77(17.9%)	15(2.0%)
不明	29(2.5%)	12(2.8%)	17(2.3%)

【性同一性障害における種々の問題】

	全体	MTF	FTM
自殺念慮	58.6% (676 / 1,154)	63.2% (268 / 424)	55.9% (408 / 730)
自傷・自殺未遂	28.4% (327 / 1,153)	31.4% (133 / 423)	26.6% (194 / 730)
不登校	29.4% (341 / 1,158)	30.8% (131 / 425)	28.6% (210 / 733)
精神科合併症	16.5% (189 / 1,148)	25.1% (106 / 422)	11.4% (83 / 726)

- ・ MTF (Male to Female)=トランスウーマン…「身体の性」が男性で「心の性」が女性の人
- ・ FTM (Female to Male)=トランスマン…「身体の性」が女性で「心の性」が男性の人

困っているようであれば、就学前や小学校低学年からの早期の対応が大切です。そのためにも、性別について相談できる周囲の大人の存在や雰囲気づくりが欠かせません。本人や保護者からの訴えがあった場合、本人の隠しておきたい気持ちを尊重したうえで理解を求め、学校として効果的な対応を進めるためにも教職員間で情報共有し、チームで対応を進めることが重要です。

【封じ込められた子ども、その心を聴く：性同一性障害の生徒に向き合う】(2017)
中塚幹也(岡山大学ジェンダークリニック医師/岡山大学大学院保健学研究科教授/GID(性同一性障害)学会理事長)

教職員の意識は？

保・幼・小・中・高等学校に所属する5,979人の先生にとったアンケート調査です。(国内6自治体で実施)

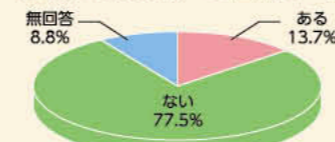
【授業で取り扱う必要は？】



半数以上が「必要」と考えています

同性愛や性同一性障害のことについて授業で教える必要があると認識している教職員が半数以上いる一方で、実際に授業で取り入れたことがあると回答したのは13.7%と少数です。

【授業で取り入れた経験は？】



【授業で取り入れない理由は？】



LGBT当事者の子どもは、不安や戸惑いを抱えながら、肯定的な情報や正しい知識を求めています。授業や日常生活でも性の多様性を話題にしたり、肯定的なメッセージを送ったりすることが大切です。

【同性愛についての差別的な言動は？】

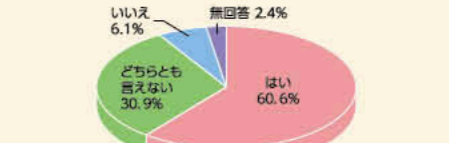


差別的な子どもの言動を見逃していませんか？

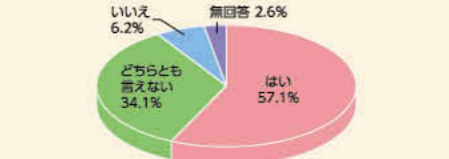
「オネエ」「ホモ」といったセクシュアリティに関係する言葉の暴力(からかいや差別的な言動を含む)により、自尊感情を深く傷つけられ、それが深刻ないじめや不登校、自殺未遂につながる可能性もあります。差別的な言動を、教職員が見逃してしまうことが決してないように積極的な関わりや介入が必要です。アンテナを高く立て、目に見えない子どもの困り感に気づける教職員の人権感覚が、学校における支援につながります。

【正しい知識を得るには？】

【性の多様性に関する研修があれば参加したいか？】



【学生時代に授業があれば履修したかったか？】



【子どもの”人生を変える”先生の言葉があります。】平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究 研究代表者：日高庸晴(宝塚大学看護学部教授) <http://health-issue.jp/f/>